

## 1. 略歴

- 1994年3月 東京大学文学部第一類（文化学）宗教学宗教学史学専修課程 卒業
- 1994年4月 東京大学大学院人文科学研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教学史学専門分野修士課程 入学
- 1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教学史学専門分野修士課程 修了
- 1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教学史学専門分野博士課程 進学
- 1997年4月 日本学術振興会特別研究員 DC2（～1999年3月）
- 2002年2月 デリー大学人文学部哲学科博士課程（カジュアルスカラー） 所属（～2005年2月）
- 2004年3月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教学史学専門分野博士課程 単位取得退学
- 2004年4月 （財）国際宗教研究所 宗教情報リサーチセンター 研究員（～2006年3月）
- 2007年9月 東京大学大学院人文社会系研究科グローバルCOE 特任研究員（～2011年9月）
- 2011年10月 東京大学大学総合教育研究センター 特任助教（～2014年3月）
- 2014年4月 東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門（U-PARL）  
特任准教授（～2018年3月）
- 2018年4月 静岡県立大学国際関係学部国際言語文化学科 准教授（～2024年3月）
- 2024年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### (1) 博士論文

「『オリエンタリスト』のインド論——18世紀末イギリスの他者と宗教」、2007.9、博士（文学）学位取得

### (2) 著書（共編）

Akira Akiyama and Kana Tomizawa (Kitazawa) eds., *The Interrelationship of Relics and Images in Christian and Buddhist Culture, Bulletin of Death and Life Studies*, v. 5 (“Death and Life” and Visual Culture 1), Tokyo: Global COE Program DALs, Graduate School of Humanities and Sociology, University of Tokyo, 2008.

Akira Akiyama and Kana Tomizawa (Kitazawa) eds., *Miraculous Images in Christian and Buddhist Culture, Bulletin of Death and Life Studies*, v. 6 (“Death and Life” and Visual Culture 2), Tokyo: Global COE Program DALs, Graduate School of Humanities and Sociology, University of Tokyo, 2010.

Akira Akiyama and Kana Tomizawa (Kitazawa) eds., *Images and Visions in Christian and Buddhist Culture, Bulletin of Death and Life Studies*, v. 8 (“Death and Life” and Visual Culture 3), Tokyo: Global COE Program DALs, Graduate School of Humanities and Sociology, University of Tokyo, 2012.

### (3) 論文

「ウィリアム・ジョーンズのインド学とそのオリエンタリズム」、『東京大学宗教学年報』14号、東京大学宗教学研究  
室、1997、43-58頁

「キリスト教世界としてのインド——ヨーロッパの自意識と戦略におけるインドの意味」、エルマー・R・グルーバー、  
ホルガー・ケルステン著『イエスは仏教徒だった？——大いなる仮説とその検証』、市川裕、小堀馨子監修、岩坂  
彰訳、同朋舎、1999、345-365頁

「18世紀末イギリスのインド論とヘースティングズ弾劾——オリエンタリズムの諸相」、『平成10-12年度科学研究費  
助成研究 近代的「宗教」概念と宗教学の形成と展開 研究成果報告書』（研究代表者 島藺進）、2001、85-102頁

「イギリス紳士のインド論争——18世紀末「オリエンタリスト」のインド理解と宗教理解」、島藺進、鶴岡賀雄編『宗  
教 再考』、ペリかん社、2003、283-308頁

“‘Orientalists’ in the Late 18<sup>th</sup> Century and Two Trends in Indian Studies,” *Proceedings of “Research Trends in Indian Studies in the  
21<sup>st</sup> Century, An International Conference of the Institute of South Asian Studies,”* Hankuk University of Foreign Studies, 2009,  
pp. 87-96.

「『オリエンタリスト』のインド観に見る宗教と宗教史への視座」、市川裕、松村一男、渡辺和子編『宗教史とは何か  
(下巻)』、リトン、2009、327-356頁

「18 世紀インドにおけるイギリス人の死の記憶——カルカッタの二つの場をめぐって」、池澤優、アンヌ・ブッシイ 編『非業の死の記憶——大量の死者をめぐる表象のポリティクス』、東京大学大学院人文社会系研究科、2010、203-221 頁

“La commémoration des morts britanniques dans l’Inde coloniale: Le cas de deux sites de Calcutta,” Masaru Ikezawa, Anne Bouchy eds., *La mort collective et le politique: Constructions mémorielles et ritualisations*, The Office of Global COE 2011 Program, Graduate School of Humanities and Sociology, University of Tokyo, 2011, pp. 191-208.

「普遍の語彙としての「スピリチュアリティ」——近代インドの用例をめぐる一試論」、鶴岡賀雄、深澤英隆編『スピリチュアリティの宗教史（下巻）』、リトン、2012、331-358 頁

「インドのスピリチュアリティ」とオリエンタリズム——19 世紀インド周辺の用例の考察、『現代インド研究』3 号、人間文化研究機構地域研究推進事業「現代インド地域研究」、2013、49-75 頁

“Sympathy and Prejudice: Late Eighteenth-Century British ‘Orientalists’ and Their Ambiguous Attitudes towards India,” *Orient on Orient: Images of Asia in Eurasian Countries, Comparative Studies on Regional Powers*, No. 13, Slavic Research Center, Hokkaido University, 2013, pp. 133-144.

「【インドの宗教文化】多彩な信仰が織りなす多文化社会の混沌と秩序」、井上順孝編著『要点解説 90 分でわかる！ ビジネスマンのための「世界の宗教」超入門』、東洋経済新報社、2013、195-226 頁

「インド」、山中弘、藤原聖子編『世界は宗教とこうしてつきあっている——社会人の宗教リテラシー入門』、弘文堂、2013、196-211 頁

[共著] 阿部卓、加藤諭、木村拓、谷島貴太、富澤かな、宮本隆史「アジア・環太平洋地域のナショナルデジタルアーカイブ政策——文化資源の統合と連携の諸相」、『情報学研究（東京大学大学院情報学環紀要）』92 号、2017、27-68 頁

[共著] 中村覚、成田健太郎、永井正勝、富澤かな「U-PARL における漢籍・碑帖拓本デジタルアーカイブの試作と研究利用」、『研究報告 人文科学とコンピュータ（CH）』2018-CH-116(5)、2018、1-8 頁

[共著] 富澤かな、木村拓、成田健太郎、永井正勝、中村覚、福島幸宏「デジタルアーカイブの「裾野のモデル」を求めて——東京大学附属図書館 U-PARL 「古典籍 on flickr! ～漢籍・法帖を写真サイトでオープンしてみると～」報告」、『情報の科学と技術』68 巻 3 号、2018、129-134 頁

「三つの国の「セキュラリズム」——南アジアからこの語の意義を考える」、池澤優編『いま宗教に向きあう 4 政治化する宗教、宗教化する政治』、岩波書店、2018、28-45 頁

「アジアと分類——共通の課題、共通の希望」、U-PARL 編『図書館がつなぐアジアの知——分類法から考える』、東京大学出版会、2020、9-45 頁

「南アジア 近現代」（2019 年の歴史学界——回顧と展望）、『史学雑誌』第 129 編第 5 号、2020、286-289 頁

「近代インドの普遍思想」、伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留編『世界哲学史 7——近代 II 自由と歴史的発展』、ちくま新書、2020、227-252 頁

「インドの宗教」、島藺進、奥山倫明編『いまを生きるための宗教学』、丸善出版、2022、193-224 頁

「さまざまな宗教、さまざまなお墓——お墓で見るインド宗教史」、小磯千尋、小松久恵編『インド文化読本』、丸善出版、2022、73-87 頁

#### (4) 翻訳・辞典項目

[事典項目]「レオン・ポリアコフ『アリア神話——ヨーロッパにおける人種主義と民族主義の源泉』、「関根康正『ケガレの人類学——南インド・ハリジャンの生活世界』」、島藺進、石井研士、下田正弘、深澤英隆編『宗教学文献事典』弘文堂、2007、207-358 頁

[共同翻訳]クリストファー・パートリッジ編著『現代世界宗教事典——新宗教、セクト、代替スピリチュアリティ』、井上順孝監訳、井上まどか、富澤かな、宮坂清訳、悠書館、2009

[事典項目]「世界宗教と民族宗教」、星野英紀、池上良正、氣多雅子、島藺進、鶴岡賀雄編『宗教学事典』丸善出版、2010、280-281 頁

[共同翻訳]ウマ・ナーラーヤン著『文化を転位させる——アイデンティティ・伝統・第三世界フェミニズム』、塩原良和監訳、川端浩平、富澤かな、濱野健、山内由理子訳、法政大学出版局、2010

[事典項目]「ユーロブディズム」、世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版、2012、552-553 頁

[事典項目]「植民地インドの外人墓地」、横浜国立大学都市科学部編『都市科学事典』春風社、2021、62-63 頁

[事典項目]「死後世界の地誌」、「死後世界旅行記」、キリスト教文化事典編集委員会編『キリスト教文化事典』丸善出版、2022、130-133 頁

[字幕作成] 「A Kali Temple Inside Out——カーリー寺院の人々」(ディベシュ・カレル、フローダ・ストラス監督、2018年)、2022

(5) その他(書評等)

[書評] 「Gail Hinich Sutherland, *The Disguises of the Demon: The Development of the Yakṣa in Hinduism and Buddhism*, Albany: SUNY, 1991」、『東京大学宗教学年報』12号、東京大学宗教学研究室、1994、155-159頁

[評論] 「鏡の国のインド——西洋のインド・イメージ」、『is』82号、ポーラ文化研究所、1999、99頁

[書評] 「Richard King, *Orientalism and Religion: Postcolonial Theory, India and “The Mystic East,”* London, New York: Routledge, 1999」、『東京大学宗教学年報』18号、東京大学宗教学研究室、2000、197-201頁

[概説] 「インドにおける宗教的重層性(世界の重層信仰(3))」、『SOUSEI』133号、全国曹洞宗青年会、2006、20-21頁

[評論] 「インドの擬人化ワールド——めくるめく神話キャラクターズの世界」、擬人化たん白書製作委員会『擬人化たん白書』、アспект、2006、70-76頁

[評論] 「ヴィヴェーカーナンダの言葉を今聴くために」、『不滅の言葉』55巻3号、日本ヴェーダーンタ協会、2014、118-123頁

[書評] 「嵩満也編『変貌と伝統の現代インド——アンベードカルと再定義されるダルマ』法蔵館、2018年」、『宗教研究』94巻2輯、日本宗教学会、2020、178-184頁

[概説] 「コロニアル遺産を旅する——植民地の過去とその今を訪ねる」、宮本久義、小西公大編『インドを旅する55章』、明石書店、2021、271-276頁

[概説] 「オリエンタリズム——インドをめぐる近代知をどうとらえ、どう受け継ぐか」、吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学——アジア・アフリカへの問い158』、ミネルヴァ書房、2022、244-245頁

[解説] 「奈良毅文庫について」、徳原靖浩編、富澤かな解説『奈良毅文庫目録』、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2024、ix-xvi頁

(6) 学会・シンポジウム報告等

「ウィリアム・ジョーンズとインド学の展開」、日本宗教学会第55回学術大会、國學院大學、1996.9.21

「ウィリアム・ジョーンズのインド宗教研究の展開と意義」、日本宗教学会第56回学術大会、慶應義塾大学、1997.9.15

「創始期インド学の宗教性と政治性」、日本宗教学会第57回学術大会、龍谷大学、1998.9.14

“The Understanding of Religion in Indology under the British Raj,” the XIXth IAHR World Congress, Takanawa Prince Hotel, Tokyo, 28 March 2005.

「18世紀末インド論における「野蛮」と「偏見」」、日本宗教学会第64回学術大会、関西大学、2005.9.10

「近代のインド理解における家族像」、比較家族史学会第49回研究大会、神戸大学、2007.6.16

「英領インドにおけるイギリス人の死の記憶——カルカッタを中心に」、東京大学グローバルCOE、フランス国立極東学院、トゥルーズ大学社会人類学センター共催ワークショップ「死者の記憶と表象のポリティクス」、東京大学(本郷)、2008.9.20

「オリエンタリストのインド観に見る宗教の「普遍」と「特殊」」、宗教史学研究所第48回研究会、東洋英和女学院大学、2008.12.6

“‘Orientalists’ in the Late 18<sup>th</sup> Century and Two Trends in Indian Studies,” Research Trends in Indian Studies in the 21<sup>st</sup> Century, An International Conference of the Institute of South Asian Studies, Conference Room, Hankuk University of Foreign Studies (HUFS), Seoul, 16 May 2009.

“Commemoration of the Dead and Modern Obelisks in British India,” International Symposium, Dialogue on Death and Life: Views from Egypt, Alexandria Forum, Bibliotheca Alexandrina, Alexandria, 3 October 2009.

「イギリス・オリエンタリストと《神秘のインド》観」、第35回南アジア月例懇話会、日本女子大学、2010.2.13

“Sympathy and Prejudice: Late 18<sup>th</sup> Century British ‘Orientalists’ and Their Ambiguous Attitudes towards India,” Slavic Research Center, Hokkaido University 2010 Summer International Symposium, Orient on Orient: Images of Asia in Eurasian Countries, Slavic Research Center, Sapporo, 8 July 2010.

“British Orientalists’ Encounter with India and Their View of Religion,” Panel: Issues in the Appropriation of the Western Concept of “Religion” in Asian Cultural Traditions: Part I, the XX<sup>th</sup> IAHR World Congress, University of Toronto, Toronto, 20 August 2010.

「18世紀インドにおけるイギリス人墓地のオベリスク意匠とその意義」、日本南アジア学会第23回全国大会、法政大学、2010.10.2

「オベリスク型墓石の歴史——インドの英人墓地から」、第2回 Fieldnet Lounge 墓場セミナー「墓場で／から繋がる——墓石をめぐる学際的研究の可能性」、東京外国語大学本郷サテライト、2011.2.5

- 「インドの宗教文化」学習教材の紹介・解説」、JSPS 科研費基盤研究 (B) 「宗教文化教育の教材に関する総合研究」と「宗教文化の授業研究」プロジェクトによる合同研究会、國學院大學、2013.2.28
- “The Concept of ‘Spirituality’ and Saints in Modern India,” Panel: Saints and Divinities as Socio-cultural Resources in Indian Society, ICAS8: The Eighth International Convention of Asia Scholars, Macao, 25 June 2013.
- 「インドから見る十八世紀末西洋近代墓地の出現と受容」、日本宗教学会第 73 回学術大会、同志社大学、2014.9.14
- 「〈アジア〉を考える——インドの事例に見るその意味と困難」、U-PARL シンポジウム「むすび、ひらくアジア——アジア研究図書館の構築に向けて」、東京大学 (本郷)、2015.1.31
- 「宗教学・死生学・インド学——〈狭間の学〉からインドを考える」、アジア農村研究会、東海大学、2015.4.11
- “The Development of the Modern Concept of ‘Spirituality’ in India: The Usage of the Term by Vivekananda and his Contemporaries,” Panel: Perspectives on Religious Studies in India, the XXI<sup>st</sup> IAHR World Congress, University of Erfurt, Erfurt, 25 August 2015.
- “Eighteenth-Century Obelisk-shaped Tombs and the Plurality of Funeral Culture in Colonial India: A Death and Life Studies Perspective,” Panel: Representing Death and Life, the XXI<sup>st</sup> IAHR World Congress, University of Erfurt, Erfurt, 25 August 2015.
- 「宗教学・オリエンタリズム・死生学——〈狭間の学〉からインドを考える」、INDAS 2015 年度現代インド・南アジアセミナー、龍谷大学、2015.9.17
- “The Development of the Modern Use of the Term ‘Spirituality’ in and around Late 19<sup>th</sup>-Century Bengal,” Panel: The Dynamics of Religion in Modern Bengal II, The 4<sup>th</sup> International Congress of Bengal Studies Japan Committee, Tokyo University of Foreign Studies, 12 December 2015.
- \*本パネルを含む The Dynamics of Religion in Modern Bengal I-IV の 4 パネルを主催
- 「「精神性=靈性」 spirituality をめぐる東西の〈あいだ〉——ヴィヴェーカーナンダ周辺の用例から考える」、国際日本文化研究センター共同研究会「多文化間交渉における〈あいだ〉の研究」第 3 回研究会、多摩美術大学美術館、2016.7.3
- 「趣旨説明 アジアにおける〈共有〉をアジアの中から考える」、U-PARL シンポジウム・むすび、ひらくアジア 2 「アジアの〈共有〉・知の〈共有〉」、東京大学 (本郷)、2017.1.29
- 「東京大学附属図書館「アジア研究図書館」計画と U-PARL の試み——まだない図書館からの情報発信」、平成 28 年度アジア情報関係機関懇談会、国会図書館関西館、2017.2.7
- 「*Times of India* に見る近代インドの“Secularism”の語用の展開」、日本宗教学会第 76 回学術大会、東京大学 (本郷)、2017.9.16
- 「はじめに——なぜ U-PARL は flickr を選んだのか?」、Asian Library Café 002 「古典籍 on flickr!~漢籍・法帖を写真サイトでオープンしてみると~」、東京大学 (本郷)、2017.10.20
- 「人文学の「デジタル」の裾野を考える——アジア研究図書館計画・宗教学・インド研究から」、第 173 回東文研・ASNET 共催セミナー、東京大学 (本郷)、2017.11.2
- 「コメント Peter van der Veer 教授講演に対して」、2017 年度第 3 回 TINDAS 国際セミナー “The Value of Comparing India and China”、東京大学 (駒場)、2017.11.22
- “Introduction: Rethinking Spirituality, Secularity and Modernity from Asia,” Symposium: Secular Religiosity and Religious Secularity: Rethinking the Asian Agency in the Shaping of Modernity, University of Tokyo (Hongo), 9 March 2018.
- Discussant and Organizer of the Panel “Follies, Mosques, and Majolica Tiles: Imagining the Colonial Built Environment in the Indian Ocean,” AAS Annual Conference (Association for Asian Studies), Washington D. C., 24 March 2018.
- “Introduction: What We Thought in March, and What We Hope to Think Today,” Panel: Secular Religiosity and Religious Secularity, AAS-in-Asia 2018, India Habitat Centre, New Delhi, 7 July 2018.
- “The Usage of ‘Spirituality’ and ‘Secularism’ and Their Development in Modern India,” Panel: Secular Religiosity and Religious Secularity, AAS-in-Asia 2018, India Habitat Centre, New Delhi, 7 July 2018.
- “How to Lower the Hurdle between IT and Humanities: Some Attempts from Japan,” Indian Institute of Technology, Tirupati, Tirupati District, 10 July 2018. (招待講演)
- “How to Lower the Hurdle of Digital Archive and Digital Humanities,” Department of Communication, University of Hyderabad, Hyderabad, 13 July 2018. (招待講演)
- 「スピリチュアリティとセキュラリティ——インドとオリエンタリズムから「ポスト世俗化」論を考える」、京都フォーラム「ポスト世俗化時代の宗教を構想する」、リーガロイヤルホテル大阪、2018.10.20-21
- 「人と物をこえて——二次元メディアが描く (無-) 媒介の世界」、宗教学研究所 第 68 回研究会、東洋英和女学院大学、2019.1.26
- “The Usage of ‘Spirituality’ and ‘Secularism’ in Modern India,” International Workshop: Religion, Nation, and State in Modern India (Session 1) (held by TINDAS, University of Tokyo), University of Tokyo (Komaba), 27 March 2019.

“How to Narrate Oppressed Grief: From Yasukuni to Calcutta,” Panel: Renarrating the Past, Center for Japanese Studies (CJS), Center for Southeast Asia Studies and Institute for South Asia Studies, University of California, Berkeley, Berkeley, 16 October 2019.

「近代インドの“spirituality”と“secularism”——その用法を「数えて」考える」、BASSS (Bay Area Social Science Seminar), University of California, Berkeley, Berkeley, 17 October 2019.

「インドの「近代的宗教概念」を「数えて」考える——梶野のDH (デジタル・ヒューマニティーズ) の試み」、2020年度第3回 RINDAS 研究会「近代インドにおける宗教と教育の変遷」、龍谷大学 (オンライン開催)、2020.12.13

「慰霊のかたちとオリエンタリズム——インドの英人墓地から考える」、令和3年度國學院大學文学部共同研究 公開研究会「死生観の歴史学——人は死をどのように捉えてきたか」、國學院大學 (オンライン開催)、2022.2.13

「オベリスク型墓石のグローバル・ヒストリー——インドの英人墓地からの試み」、第46回地中海学会大会、大塚国際美術館、2022.6.12

“Holwell's Obelisks and the New Religiosity of the British in Late 18th Century Calcutta,” Panel: Religious and Social Identity in Transition: Conflict, Conciliation and Coexistence in Early Modern Asia (Double Panel), 7th ENIUGH (European Congress on World and Global History) Congress: “Conflict and Inequity, Peace and Justice: Local, Regional and International Perspectives,” The Hague, 1 July 2023.

### 3. 主な社会活動

#### (1) 非常勤講師

高崎経済大学非常勤講師 (「宗教学概論」) (2005.9~2008.3)

東京経済大学非常勤講師 (「現代社会と宗教」「世界の地域と文化・地域研究」) (2006.4~2008.3)

芝浦工業大学非常勤講師 (「宗教史」) (2007.4~2012.3)

鎌倉女子大学非常勤講師 (「メディア文化論」) (2009.4~2011.3)

東洋学園大学非常勤講師 (「人間と宗教」「現代社会と倫理」「東洋思想の人間観」「日本人の死生観」) (2009.4~2019.3)

立教大学兼任講師 (「基礎演習」「専門演習」) (2010.4~2018.3)

東洋大学非常勤講師 (「社会と宗教・宗教社会学」) (2012.4~2020.3)

千葉大学非常勤講師 (「人文科学の課題：先端研究の成果を知る」) (2012.4~2020.3)

慶應義塾大学非常勤講師 (「東洋史特殊II」) (2020.4~現在)

#### (2) 学会

日本宗教学会、会員 (1994.7~現在)、評議員 (2016.9~現在)、理事 (2022.9~現在)

British Association for Cemeteries in South Asia (BACSA)、会員 (2010.6~現在)

Association for Asian Studies (AAS)、会員 (2017.7月~現在)

日本南アジア学会、会員 (2010.4~現在)、理事・評議員 (2022.9~現在)

静岡県立美術館、協議会委員 (2019.4~現在)

〈学術誌編集委員〉

『宗教研究』(日本宗教学会)、編集委員 (2019.9~現在)